

5月10日 ルカによる福音書24章28～43節

【解説と黙想】

## 救われた歩み：イエスさまを信じる

子どもと親のカテキズムは、問2において、神さまと共に歩むとは、「まことの神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜び、神さまと人に仕えて歩むこと」と教える。カテキズムは次に、問3において、そのような神と共にある歩みを私たちが歩むために、先ず必要なことを教えている。

問3は「神さまと共に歩むために、罪人である私たちに必要なことは何ですか」と問うが、この問いは、すでに人間が創造された状態から墮落し、罪と悲慘に陥った現実を踏まえている(問19～25参照)。つまり、私たちは罪人であり、神と共に歩めなくなっている現実が示されているのである。神の子どもとして神と共に歩むように造られた私たち人間にとって(問17)、最も悲慘なことは、神との交わりを失い、「神が共にいないこと」である。子どもたちがイエス・キリストにある救いを学ぶ前に、このことを先ず知らせたい。

カテキズムは次に、答えにおいて、そのような罪人である私たちが、神と共に歩むようになるために必要なことを簡単に教えている。それは「イエス・キリストを信じ、救われて、神さまの子どもとされること」である。これは問20～41の「信じて歩む道」の概説である。すなわち、カテキズムは「信じて歩む」場合の「信仰内容」の「救い」について予備的に示しているのである。今回は前半の「イエス・キリストを信じ、救われて」という部分について扱いたい。

聖書には、罪人である私たちはイエス・

キリストの御名を信じることで救われることが示されている。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます」(使徒16:31)。それは、「キリストによる救いの御業」(特に十字架と復活)のみが、私たちを罪と悲慘の状態から救うことができるからである。私たちはただ「イエスさまを信じること」によって、その救いに与ることができるのである。

それでは、「イエスさまを信じる」とはどういうことか。ハイデルベルク信仰問答問21は「(まことの信仰とは)神が御言葉において、私たちに啓示されたすべてを、わたしが真実であると確信する、その確かな認識のことだけでなく、福音を通して聖霊がわたしのうちに起こしてくださる、心からの信頼のことでもあります」と語る。このように、イエス・キリストを信じるとは、①啓示された御言葉の知識、特にキリストについての知識を確信すること、②キリストに心から信頼することである。

神はイエス・キリストを信じる信仰によって、私たちをキリストに結び合わせてくださる。私たちはそのキリストに結ばれることによって、キリストから救いの恵みを頂くのである(問35)。もちろん、そこには聖霊なる神の働きがあるのだが、今回はシンプルに私たちがイエス・キリストを信じ、信頼することで、救いの恵みを頂けることを語りたい。私たちがイエスさまに信頼し、イエスさまと結ばれるとき、私たちは再び神との交わりを回復する。神さまと共に歩む道が再スタートするのである。

(佐野直史)

《参照聖句》 ヨハネ1章12節、使徒4章12節、16章31節

《教理問答》 ハイデルベルク信仰問答 問21、子どもと親のカテキズム 問35

5月10日 ルカによる福音書24章28～43節

【説教展開例】

## 救われた歩み：イエスさまを信じる

◇..... 単元のねらい .....◇

子どもたちが、①人は生まれながらに罪人であり、神と共に歩めなくなっていることを知ること、②しかし、イエス・キリストの救いの御業によって、救いが与えられており、その主イエスの御名を信じるなら、その救いに与ることができることを知ること、③さらには、その救いの主を信じ、信頼するように促すこと。イエスさまを信じるだけで救われる幸いを覚えたい。

### 「イエスさまと手をつなごう！」

先週までは、神さまと共に歩むとは、どういうことなのかを学びました。何だったか覚えているかな？ それは、「まことの神さまを知り、神さまの栄光をあらわし、神さまを喜び、神さまと人に仕えて歩むこと」(問2)でした。今日はその続きです。今日のカテキズムの問いでは、そのように私たちが神さまと一緒に歩むために、先ず必要なことを教えています。

問3 神さまと共に歩むために、罪人である私たちに必要なことは何ですか  
 答 イエス・キリストを信じ、救われて、神さまの子どもとされることです。

「罪人である私たち」と書かれています。罪人とは罪を犯した人のことです。みんなは罪って知っていますか？ 罪とは、「神さまの言葉に背くこと」(問14)です。聖書を通して、神さまは私たちに、神さまを大切にすること、また隣人(家族や友達)を大切にしていることを教えています。それは私たちが幸せに生きるためです。だけど、私たちはその神さまの言葉を全部守ることができているかな？ きつと難しいと

思います。先生もできていません。神さまを大切にできなかつたり、友達を傷つけてしまうことがあります。罪とは、①神さまを大切しないこと、②隣人(家族や友達)を大切にしないことなのです。私たちはこの罪というものをみんなが持っています。そう、私たちは罪人なのです。

私たちの内にある罪は、私たちと神さまとの関係を悪くします。罪によって、私たちは神さまの言葉に背き、神さまから離れようとしています。また、ちょっと恐い話をするけど、罪人である私たちは神さまの怒りの下にあり、ほろびの死に定められています(問21)。それは、私たちが神さまを大切にしなかつたり、神さまが大切にしておられる隣人(家族や友だち)を傷つけるからです。このように、私たちの内にある罪は、私たちと神さまとの間を引き裂くのです。つまり、私たちに罪があると、私たちは神さまと共に歩めなくなってしまうのです！ 私たちは神さまの子どもとして神さまと共に歩むように造られました(問17)。そんな私たち人にとって、最も悲しいことは、神とのつながりがなくなって、神さまと一緒にいないことです。私たちの内にあ

る罪にはそういう恐ろしい力があるので  
す。

しかし、憐れみ深い神さまは私たちをそ  
のような罪から救うために独り子イエスさ  
まを送ってくださいました。イエスさまは  
十字架において、私たちのすべての罪を背  
負い、私たちの代わりに死んでくださった  
のです。イエスさまの十字架の死によって、  
私たちの罪の償いがなされました。そのこ  
とによって、私たちの罪は赦され、私たち  
が再び神さまと共に歩む道が開かれたので  
す。

私たちは自分の力で罪と死から自分自身  
を救うことはできません。しかし、私たち  
はイエスさまの救いのお働きによって、救  
いの道が与えられています。聖書に書かれ  
るように、私たちはイエスさまのお名前を  
信じることによって、イエスさまが獲得さ  
れた救いの恵みをいただくことができるの  
です。「主イエスを信じなさい。そうすれば、  
あなたも家族も救われます」（使徒16：  
31）、と書かれている通りです。私たちは  
ただイエスさまを信じるだけで罪と死から  
の救いが与えられているのです！

ところで、「イエスさまを信じる」とは  
どういうことでしょうか？ イエスさまの  
何を信じればいいのでしょうか？ イエス  
さまを信じるとは、2つの意味があります。  
一つは、イエスさまが私たちの罪のために  
十字架にかかってくださったという事実を  
確かに信じることです。だけど、それだけ  
ではありません。イエスさまを信じるとは、  
私たちがイエスさまの十字架を知識として  
信じるだけではなく、その救い主であるイ  
エスさまに心から信頼することでもありま

す。イエスさまの救いの恵みを信じて、「イ  
エスさまだけが私を助けてくださる御方だ  
ある」とイエスさまに信頼することが、「イ  
エスさまを信じる」ということなのです。

みんなは「つながれ!! イエスさま」（『プ  
レイズワールド』78番参照）という賛美の  
歌を知っていますか？ そこでは次のよう  
に歌われています。

小さな僕たちは何もできないけれど  
イエスさまがいっしょなら力がわいてく  
るよ  
ほらね  
つながれ!! イエスさまに  
どんなときも離れないで  
いつだって忘れない  
イエスさまと手をつなごう

この賛美の歌にあるように、小さな私た  
ちには何の力もありません。大人の先生た  
ちも、同じです。私たち人は自分の力で罪  
と死から自分自身を救うことはできませ  
ん。だけれども、イエスさまと一緒にいて  
くだされば、私たちに力が湧いてきます。  
私たちがイエスさまと手をつないで、イエ  
スさまと結ばれたら、そのイエスさまから  
私たちに力が与えられるのです！ イエス  
さまが十字架の死と復活のお働きによって  
獲得されたすべての救いの恵みが、イエス  
さまから私たちに与えられるのです。

この歌の中で考えるならば、イエスさま  
を信じるとは、「イエスさまと手をつなぐ  
こと」と言うことができるでしょう。イエ  
スさまはいつも弱い私たちを助けようと手  
を差し伸べておられます。そのイエスさま  
の手を取って、イエスさまに依り頼むこと、

これが「イエスさまを信じる」ということなのです。

私たちがイエスさまを救い主と信じ、信頼して、イエスさまと手をつなぐとき、神さまの救いの恵みとたくさんの祝福が私たちに与えられます。そして何よりも、大きな恵みは、私たちが再び神さまと共に歩むことができるようになることです。私たちがイエスさまと手をつなぐとき、イエスさまと共にある私たちの新しい歩みが始まります。そしてまた、イエスさまの十字架によって、罪赦された私たちは父なる神さま

と再び歩みを共にすることが許されるのです。

私たちは一人ぼっちで罪の問題に悩むことがあるかもしれません。神さまを大切にできない自分、人を大切にできない自分に悩むことがあるかもしれません。しかし、そのような時に、イエスさまは私たちに手を差し伸べておられます。神さまが共におられること、イエスさまが共におられること、これほど心強く、喜ばしいことはありません！ 私たちはイエスさまを信じて、信頼して、イエスさまと手をつなぎたいと思います。 (佐野直史)

---

《今週の暗唱聖句》

主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。

(使徒言行録16章31節)

5月10日 ルカによる福音書24章28～43節

【分級展開例A】

## 救われた歩み：イエスさまを信じる

### 〈展開例〉

「イエスさまを信じるわたし」の絵を描こう。

### 準備するもの

画用紙、鉛筆、色鉛筆、クレヨンなど、お手本となるイエスさまのイラスト

イエスさまと自分が一緒にいるところを絵を描いてみよう。

「母の日」を覚えて、お母さんの顔を一緒に描くのも良いです。

イエスさまの姿は、一般的なイラストなどを見せてそれを参考にすると良い。ただ

し、イエスさまの印象をあまりにも限定してしまったり、明らかに誤ったイメージのものは避けるようにする。

イエスさまの姿を描くことは偶像礼拝の可能性をも含むことを十分に理解し、その上でなお、「共にいる」ことの表現としてふさわしいと判断できる場合に行うようにする。教師会での検討や、必要であれば牧師や長老に事前に相談し、判断を仰いでおく間違いのないでしょう。

絵を描くときに、机や子ども達自身が汚れないように画材は工夫しましょう。特に油性のものは思わぬところに付いて落ちない可能性がありますので注意しましょう。

5月10日 ルカによる福音書24章28～43節

【分級展開例B】

## 救われた歩み：イエスさまを信じる

1. 使徒言行録16章16～34節を読みましょう。パウロとシラスは女奴隷の占いをさせる悪霊を追い出しました。すると女奴隷の主人たちはパウロたちに怒りました。どうしてでしょう。そしてパウロたちをどうしたのでしょうか。
2. パウロたちは牢屋の奥で、真夜中に何をしていたかな。どうしてそんなことをしていたのでしょうかね。
3. その夜、大地震が起こってパウロたちの牢屋はこわれてしまいました。でも牢屋にいた囚人たちは誰も脱走しませんでした。不思議ですね。どうしてでしょうか。瓦礫にうまった？ 暗すぎた？ それとも？
4. 牢屋の看守さんは剣をぬいて自殺をしようとしてしました。恐ろしいですね。囚人を逃がしたら自分の命を捨てることで責任をとらないといけない厳しい決まりがあったのです。でもパウロさんが「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる」といいました。ほっとしますね。
5. パウロさんたちの前に看守さんはふるえながらひれ伏して「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか」といいました。するとパウロはどう答えましたか？その聖書の言葉を皆で声をだして読んでみよう。
6. 看守さんにパウロは「主の言葉」、聖書の話伝えました。そして看守さんはパウロたちの傷を洗ってあげて、自分は罪を洗ってもらいました。そう洗礼をうけたのです。その時、一緒に洗礼を受けたのは誰かな？
7. そして看守さんと家族はイエス様を信じるようになったことを家族と一緒にお祝いの食事をしました。まだ真夜中です。真夜中の地震のすぐあとのパーティーです。神様は大地震などの災害も恵み変えることができます。家族にとって心にずっと残る真夜中の食事会だったでしょうね。

5月10日 ルカによる福音書24章28～43節

【分級展開例C】

## 救われた歩み：イエスさまを信じる

1. 使徒言行録16章16～34節を読みましょう。パウロとシラスは女奴隷の占いをさせる悪霊を追い出しました。すると女奴隷の主人たちはパウロたちに怒りました。どうしてでしょう。そしてパウロたちをどうしたのでしょうか。みんなは教会に行っていること、クリスチャンだからからかわれることがありましたか。
2. パウロたちは牢屋の奥で、真夜中に讃美歌を歌っていました。地下牢の一番奥の部屋です。きっと汚い暗いはずですが。それでも神様に讃美歌を歌いました。どうしてそんなことができたのでしょうか。目の前の現実はとても大変です。でも神様に支えられて二人は勇気をもらったはずですが。
3. その夜、大地震が起こってパウロたちの牢屋はこわれてしまいました。でも牢屋にいた囚人たちは誰も脱走しませんでした。不思議ですね。どうしてでしょう。きっとパウロたちの讃美歌と大地震が関係していると囚人は思った。それにパウロたちの信じる神様の働きが関係していると思ったのではないのでしょうか。
4. 牢屋の看守さんは剣をぬいて自殺をしようとしてしました。恐ろしいですね。みんなもこれで人生終わりだとか、「死にそう」と思うようなピンチの時がありましたか。看守は囚人を逃がしたら自分の命を捨てることで責任をとらないといけない厳しい決まりがあったのです。でもパウロさんが「自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる」といいました。ほっとしますね。
5. パウロさんたちの前に看守さんはふるえながらひれ伏して「先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか」といいました。するとパウロはどう答えましたか？その聖書の言葉を皆で声をだして読んでみよう。看守さんにパウロは「主の言葉」、聖書の話伝えました。そして看守さんはパウロたちの傷を洗ってあげて、自分は罪を洗ってもらいました。そう洗礼をうけたのです。その時、一緒に洗礼を受けたのは家族でした。みんなは家族と教会に来ることができるならすごい恵みです。家族の救いのために一緒に教会学校で祈りましょう。
6. そして看守さんと家族はイエス様を信じるようになったことを家族と一緒にお祝いの食事をしました。まだ真夜中です。真夜中の地震のすぐあとのパーティーです。神様は大地震などの災害も恵み変えることができます。家族にとって心にずっと残る真夜中の食事会だったでしょうね。